

マニカの不思議な旅 (1989)

MANIKA-MANIKA: THE GIRL WHO LIVED TWICE
MANIKA, UNE VIE PLUS TARD

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 Color
時間 100分
初公開日 1991/05/18
公開情報 巴里映画

【解説】
何かヘルマン・ヘッセでも読むような、輪廻にまつわる美しい掌編。監督・脚本のヴィリエの妻がインド人だとかで、西洋人のみるインドを適度に憧れめいて、なおかつ、真に迫るものに描いている。10歳のマニカはインド洋沿岸の漁村に住む愛らしい少女。ある日彼女は自分が、前世では夫を持ち幸福に暮らしていたが出産の際死んだ女の生まれ変わりだと告げ、前世での夫探しに家出する。これを何とかいさめようと、教師のダニエル神父と一緒にネパールへついてゆくが……。僧衣姿のJ・サンズが美しく、少女のA・ダルカールははつらつとした銀幕デビューを飾る（後に「シティ・オブ・ジョイ」にも顔を出していた）。ネパールの瞑想寺院の尼僧S・オードランを始め、脇の役者も確かで、少女の可憐な冒険を盛り上げる。そして、（インドを舞台にした映画は皆そうだが）撮影が素晴らしい。'89年のカンヌで観客賞受賞も頷ける。

【クレジット】

監督	フランソワ・ヴィリエ	Francois Villiers
製作総指揮	ラウル・カツ	
脚本	フランソワ・ヴィリエ	Francois Villiers
	ブライアン・フェラン	Brian Phelan
撮影	アラン・ルヴァン	Alain Levent
音楽	ナレシュ・ソハル	
出演	ジュリアン・サンズ	Julian Sands
	アイシャー・ダルカール	Ayesha Dharker
	スレッシュ・オブロワ	
	ステファーン・オードラン	Stephane Audran
	ジャン＝フィリップ・エコフェ	Jean-Philippe Ecoffey